

# 淀川水系に棲む 遊泳魚

本流の深場から岸際の浅場まで広範囲で見られますが、タナゴの仲間は主にワンドに棲息。餌や産卵など、その生態に応じて棲み分けしています。淀川には外来種であるオオクチバスやブルーギルも棲息しています。



# 淀川水系に棲む 底生魚

主に岸際の浅場や障害物の物陰などに棲息。ハゼの仲間は流れの速い場所でも見られます。餌や好適底質など、その生態に応じて棲み分けしています。淀川では外来種のチャネルキャットフィッシュも見つかっています。

淀川自然

2017年4月号

号外

# 画報

淀川水系の生物多様性を見る・知る・楽しむ  
生きもののシグナル

YODOGAWA SHIZEN GAHO

## 特集 「淀川の淡水魚」

淀川の源は、滋賀県山間部にある大小の支川です。それらの支川から日本一の湖である琵琶湖に集まり、唯一の流出河川である瀬田川となって流れ出します。南郷洗堰を過ぎると再び山間部を通り、滋賀県と京都府の境で宇治川と名前を変えて天ヶ瀬ダムを通過します。そして、三川合流部で桂川、木津川と合わさって、大阪平野を北東から南西方向に斜めに流れます。その三川合流部から大阪湾までが一級河川の淀川本川であり、途中、神崎川と大川（旧淀川）を分派します。なお、河川法では琵琶湖を淀川の水源地としており、瀬田川・宇治川は、法律上では淀川と定められています。このように淀川は山間部や丘陵、平野部など多様な環境の中を流れる数多くの河川を有するとともに、多くの固有種が生息する琵琶湖の存在によって『日本の淡水魚の宝庫』とも称されています。

まさに生物多様性の根幹である「多様な環境条件下には多様な生物・生態系が育まれる場所」と言えます。

平成6～16年の河川水辺の国勢調査によると、桂川、木津川、宇治川、及び三川合流より下流の淀川本川において62種の魚類が確認されています。

また、平成15年度の滋賀県の資料によると、琵琶湖においては16種の固有種を含む54種の魚類が確認されています。この中には、残念ながら外来種も含まれていますが、種数からみても淀川水系は多様性に富む環境条件を有し、豊かな魚類相を育む河川に他なりません。全ての淡水魚類を紹介したいのは山々ですが、それはまた別の機会として、本号外では淀川本川で見られる淡水魚の代表的な種を紹介し、中面では捕まえた魚を見分けるための同定チャートを掲載していますので、ぜひ試してみてください。



## 来た・見た・聞いた 淀川雑記帳



「あの石の下に隠れてるとちゃうか？」と予想して石をめくりながらガサったり、数人で魚群を囲い込んだり。魚を追いかけると、時間を忘れるほど楽しく、子どもの頃にトリップできる。私と同じように、子どもの心をもつ仲間が池田哲哉さん。毎号の連載に加え、今回の号外では全面協力をお願いした。私たちの淀川。私たちの好きな魚たちを紹介したいと、写真も提供していただいた。だが、外来種の問題は外せない。

5月14日（日）、イタセンネット主催の「外来魚駆除釣り大会 in 淀川2017」が城北ワンドで開催される。釣りだけでなく、地引き網体験も。興味のある方はぜひご参加を！

（編集長・石山郁慧）

開催日：2017年5月14日（日）雨天決行  
時間：10:00～15:00 自由参加・自由解散  
13:00～14:00 地びき網と魚の観察  
会場：淀川左岸河川敷・城北ワンド群一帯  
参加費：無料（事前申し込み不要）  
受付：菅原城北大橋南詰下（大阪市旭区）  
※ 釣り道具をお持ちの方は極力ご持参下さい  
※ 小学生以下のお子様は保護者同伴でお願いします  
※ 発生したゴミは必ずお持ち帰りください  
■お問い合わせ TEL 072-833-2770



技術士（総合技術監理部門、建設部門、水産部門）  
環境省 環境カウンセラー（事業者部門、市民部門）  
池田哲哉さん



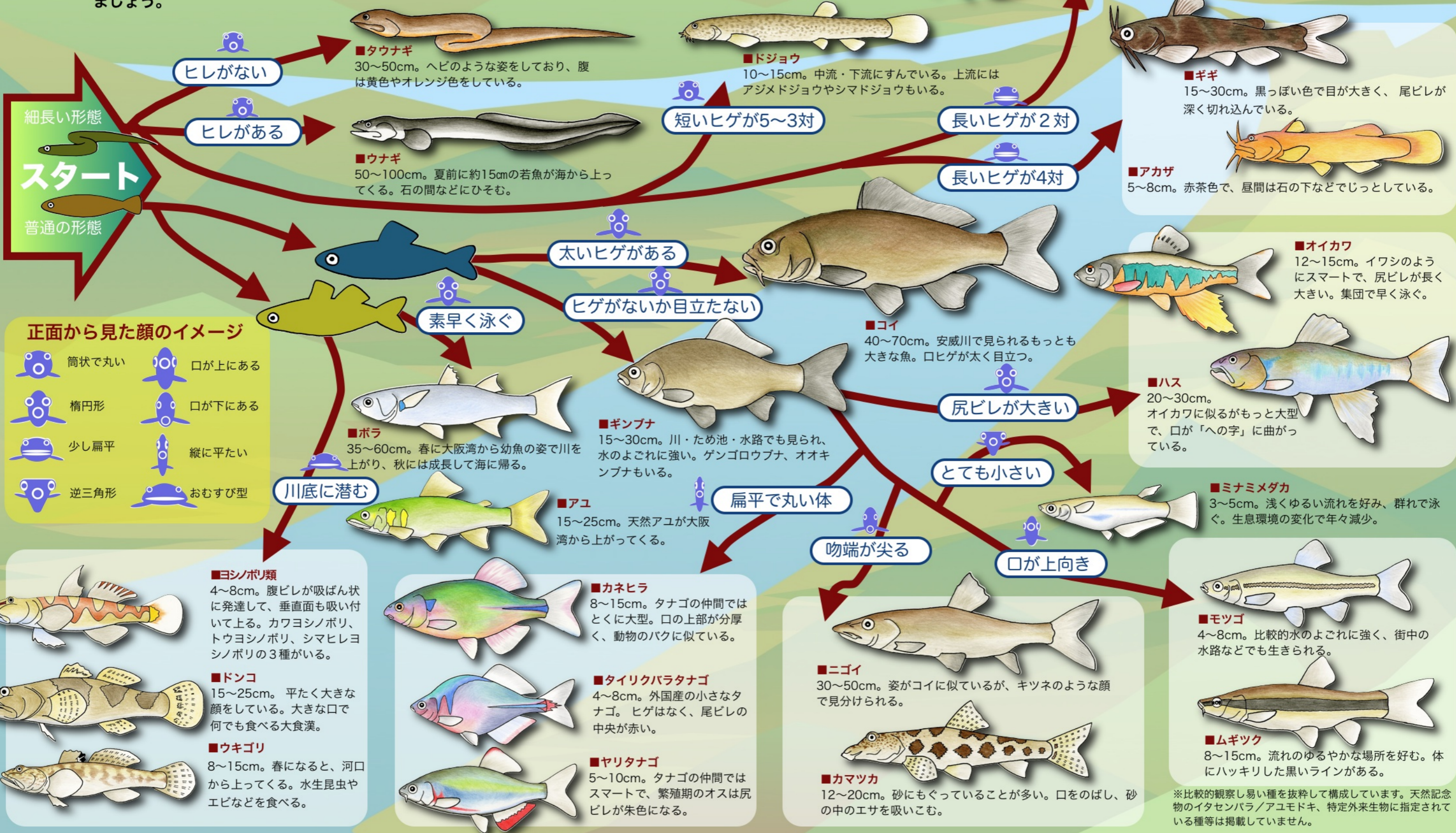
デザイン監修：NPO法人nature works 泉野幸彦・ありさだあきよ  
イラスト監修：NPO法人nature works 小村一也  
取材協力：人を自然に近づける川い会  
発行支援：国土交通省 淀川河川事務所

発行責任者 淀川管内河川レンジャー・石山郁慧

# 淀川淡水魚 かんたん 同定チャート

淀川には、多くの魚種が生息しています。大阪湾から上ってくるウナギやボラ、上流のきれいな流れにしかない貴重なものまで、琵琶湖や桂川・木津川や流入河川で構成されている淀川水系には、62種が棲んでいます。川や池で魚たちと出会ったとき「この魚はなんだろう？」と迷うこともあるでしょう。でも、魚の見分け方は意外と簡単なんです。自分の見つけた魚を下の図式に当てはめて、調べてみましょう。

★知っておきたいポイント  
淡水魚の多くは、背ビレが1つのコイの仲間です。背ビレが2つある種のほとんどは、ハゼとそれに近い仲間です。この区別がわかれば、およその魚の種類や名前がわかるようになります。



■ナマズ  
50~70cm。5月ごろ、産卵のため浅い場所に集まる。小さい時はヒゲが6本ある。

■ギギ  
15~30cm。黒っぽい色で目が大きく、尾ビレが深く切れ込んでいる。

■アカザ  
5~8cm。赤茶色で、屋間は石の下などでじっとしている。

■オイカワ  
12~15cm。イワシのようにスマートで、尻ビレが長く大きい。集団で早く泳ぐ。

■ハス  
20~30cm。オイカワに似るがもっと大型で、口が「へ」の字に曲がっている。

■ミナミメダカ  
3~5cm。浅くゆるい流れを好み、群れて泳ぐ。生息環境の変化で年々減少。

■モツゴ  
4~8cm。比較的水のよごれに強く、街中の水路などでも生きられる。

■ムギツク  
8~15cm。流れのゆるやかな場所を好む。体にハッキリした黒いラインがある。

※比較的観察しやすい種を抜粋して構成しています。天然記念物のイタセンバラ/アユモドキ、特定外来生物に指定されている種等は掲載していません。